

タイトル「**2021年度 人間学部**」、フォルダ「**大学 人間-大学特別**」
シラバスの詳細は以下となります。

科目名	地球環境論 II		
英文科目名	Ecology II	他学部他学科履修可否	
担当教員	中山智晴		
対象学年	1年,2年,3年,4年	クラス	3
講義室	W-201	開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位区分	選択
授業形態	講義	単位数	2
キャリア該当科目			
備考			
ディプロマポリシー	1. 社会的課題とりわけ人権にかかわる課題への洞察力や、対人援助能力などを活かして、社会福祉に関連する課題を解決することができる能力を獲得する。		
授業の目的・到達目標	<p>【目的】 環境問題の解決は、事象の背景を理解した後の課題解決に向けた行動力が重要である。そこでまずは、自然界の生き物の共生メカニズムを理解することで、人間社会で発生する環境問題の具体的・効果的改善方法、並びに共生社会の構築に向けた具体的な取組みを理解する。次に、世界で取り組まれている地球共生の事例、課題を整理することで、将来の地球を担う責務を自らが認識し、行動に出る積極的な人材になるよう、具体的活動目標と活動方法を自らが考え、選択し、実践することができる力を身につける。</p> <p>【到達目標】 本講義は、以下の点を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人と人、人と自然の相互関係の基本システムを活用し、自然に学ぶ「環境配慮型行動」を具体的に他者へ表現できる。 2. 国内外のNPO、NGO等で活躍する若者の現状を理解し、地球共生へ向けての課題を正しく理解し行動に移すための行動計画を立案できる。 3. 地球環境をマクロな視点から眺め、そして、地球共生への提言・実践できる国際人となるべき、他者と連携し課題解決に向けた実践力が習得できる。 		
授業概要	<p><1回>命あふれる自然の仕組み（生物多様性、種内関係、種間関係） <2回>生物多様性に支えられた社会（遺伝子、種、生態系の多様性） <3回>消えていく生き物を救う（生物多様性の減少、絶滅しやすい種を考える） <4回>生物多様性を保全する（個体群を保全する、生息地を保全するために） <5回>大きくなりすぎた人間社会（共有地の悲劇、現代の地球の問題点） <6回>自然のメカニズムから学ぶ共生 ～自然界の共生メカニズムを検証する～ <7回>なぜ共生が必要なのか（社会科学、経済・経営学分野への応用） <8回>私たちの進むべき道 ～3つのバランス～（共生理念に基づく社会） <9回>21世紀の共生社会を考える（自然環境と文化環境が調和する社会とは） <10回>世界で活躍する日本の若者たち（社会的格差の解消と環境問題の関係） <11回>国内から地球環境を考える ～日本人のライフスタイルと地球環境の関連性～ <12回>国外から地球環境を考える ～途上国、先進国の関係性と環境問題～ <13回>国際環境NGOの果たす役割とは <14回>ワールドスタディズとしての地球環境論（開発教育、環境教育、人権教育、ESD教育） <15回>私たちの進むべき道 ～自然界の仕組みをヒントに～</p>		
学習演題（予習・復習）	<p>第1～2回目 予習：教科書第1章を読み、自然界の共生の各メカニズムをノートに書き出し、まとめてくる（90分程度）。復習：各メカニズムの相互関係をノートにまとめ直し、理解してくる（90分程度）。</p> <p>第3～4回目 予習：教科書第2章を読み、環境変化で影響を受ける生き物の現状、絶滅に瀕する生き物を保全する際の理論をノートにまとめてくる（90分程度）。復習：絶滅しやすい生き物のもつ共通性と環境との関連性、生物多様性とは何か、また、個体、個体群、群集や生態系のつながりをノートにまとめておく（90分程度）。</p> <p>第5回目 予習：教科書第3章を読み、共有地の悲劇の理論的背景を理解する（90分程度）。復習：経済合理主義がもたらす悲劇とは何かをノートにまとめておく（90分程度）。</p> <p>第6～7回目 予習：教科書第4章を読み、自然界の共生関係の分類と機能を理解できるようにノートにまとめてくる（90分程度）。復習：相利共生の関係を理解したうえで、社会科学、経済・経営学分野への応用例をまとめておく（90分程度）。</p> <p>第8回目 予習：教科書第5章を読み、持続可能な社会を形成するための3つのバランスをノートにまとめておく（90分程度）。復習：地球的公正の概念をまとめ、生活を自然に合わせる具体的なライフスタイルをまとめておく（90分程度）。</p> <p>第9回目 予習：教科書第6章を読み、自然環境と文化環境が調和する社会のポイントをノートにまとめておく（90分程度）。復習：「生物多様性」「文化的多様性」そして「言語多様性」の関係性をまとめておく（90分程度）。</p> <p>第10回目 予習：海外で環境問題の改善に取り組む団体の活動事例を3つ以上調べ、ノートに活動内容や背景をまとめておく（90分程度）。復習：最も感銘を受けた活動団体の取り組みの課題を抽出し、改善策をまとめておく（90分程度）。</p> <p>第11回目 予習：国内で環境問題の改善に取り組む団体の活動事例を3つ以上調べ、ノートに活動内容や背景をまとめておく（90分程度）。復習：日本人のライフスタイルと地球環境の関連性をまとめ、ライフスタイルの改善が地球環境に及ぼす影響をまとめておく（90分程度）。</p> <p>第12回目 予習：途上国、先進国の関係性と環境問題のつながりを理解し、大きな問題点を3つノートにまとめる（90分程度）。復習：自然界における共生のメカニズムを人間社会に当てはめ考える上での問題点を3つノートにまとめておく（90分程度）。</p> <p>第13回目</p>		

	<p>予習：毎回の講義で指示されるポイント（全70項目程度）を読み返し、内容を「地球環境にかかわる問題」「生物多様性にかかわる問題」「持続可能な社会にかかわる問題」そして「共生社会にかかわる問題」の4カテゴリーに分類、ノートへまとめ直すことで、マイ・ノートを完成させる（120分程度）。復習：4カテゴリーに分類した70項目と関連性を持つ「自然界の仕組み」を洗い出し、表形式にまとめておく（90分程度）。</p> <p>第14回目 予習：授業で提示した70項目のポイントを、背景、現状、問題点、改善策の順番に並べ替え、他者へ自然のメカニズムから学ぶ人間社会のあり方を伝える際のマイ・ノートづくりを行うこと（90分程度）。復習：マイ・ノートを活用し、「飢餓・貧困－環境問題」の関係性を他者に説明するための概要をまとめる（90分程度）。</p> <p>第15回目 予習：共生社会を形成する取り組み事例を3つ以上ノートにまとめておく（90分程度）。復習：講義で取り上げた「国内外の環境問題への取り組み」を参考に、今できる取り組みを企画書の形にまとめておく（90分程度）。</p>
授業方法	<p>私たちを取り巻く世界は一本の糸でつながり、その中を全ての物が循環している。本講義では、自然界のメカニズムを参考に、そのつながりがいたるところで断絶されている現実を改善する方法を多くの事例を伝えていく。そして、今何を行動に移すべきなのかを各自が考え、そして実践していく具体的な課題解決型学習である。講義は視聴覚教材（パワーポイントやDVDなど）を多用し、視覚的な学習効果も狙う形式とする。講義開始時にポイントを指示する。また、講義終了前にポイントの中から提示された1つの課題に対しまとめ、提出する。毎回理解度チェック問題を課し、その結果を次の授業で学生にフィードバックする。</p>
成績評価の基準	<p>理解度チェックによる授業への参加意欲度（30%）、毎回設定されるテーマに対する具体的解決策（提出課題内容）による創造性（20%）を評価する。最終試験では、前期に習得した基本的知見をすべて活用し、地球環境問題を改善する広域的な考え方について評価する（50%）。授業内に行った課題については、復習を含め次の講義内に講評を行う。</p>
教科書	<p>「中山智晴、改訂版 競争から共生の社会へ～自然のメカニズムから学ぶ～、北樹出版、2016、ISBN9784779304910」</p>
参考書	<p>「レスター・ブラウン、地球白書 2010-11、(株)ワールドウォッチジャパン、2010、ISBN4948754390」、「第三版 中山智晴、地球に学ば一人、自然、そして地球をつなぐ、北樹出版、2016、ISBN9784779304804」</p>
実務経験のある教員による授業	
実務経験の内容	
実務経験の当該科目への活用	